

特集

災害の教訓を活かす

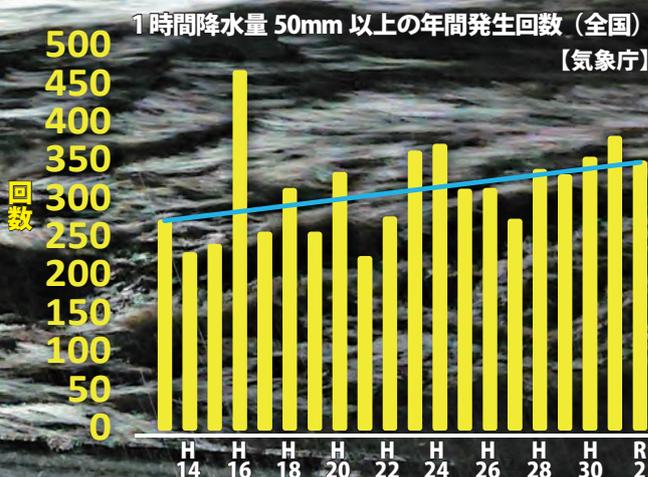
近年、1時間に50mm以上の降水量が伴う集中豪雨が増加傾向にあります。

特にこれからの季節は、台風やゲリラ豪雨が発生するなど、大雨に対する一層の警戒が必要です。

令和元年10月の東日本台風（台風19号）では市内でも河川が決壊するなど各地で大きな被害が発生しましたが、一人ひとりが雨に対する正しい認識を持ち、日頃から備えておくことで減災につなげることができます。

今号では、災害時における避難のあり方と、東日本台風の経験を教訓に今後の防災に向けた取り組みについて紹介します。

災害の記憶を風化させないためにも、改めて、防災対策について考えてみませんか。



注意したい雨の数字

1時間で50mmは冠水の危険

天気予報で『1時間に50mm以上』の雨が降るおそれという表現を聞いたことがあると思います。言い換えると「1時間で雨水が5cmの高さまで溜まる」規模の雨になります。

このような雨が短時間で降ると、低い土地や道路のアンダーパスなどでは大人のひざ下くらいまで冠水する危険性があります。



24時間で200mmは土砂災害の危険

もうひとつ天気予報で注意したい雨の数字は「24時間で200mm以上」です。一般的には1日で80mmを超える雨量で災害のリスクが高まり、200mmを超えると、土砂災害が発生すると言われています。

「1時間に50mm以上」、「24時間で200mm以上」という表現を天気予報で聞いたなら、頭を災害モードに切り替えてください。



自助

「自分（家族）の命は、自分（家族）で守る」

自分の手で自分・家族・財産を守る備えと行動を「自助」といい、災害対策の基本となります。普段から災害に関する知識を身につけ、災害を正しく理解することで、災害に対する準備をしておきましょう。ここでは、避難の際に予め知ってほしいことについて紹介します。

「5段階の警戒レベル」とは

令和3年5月20日付けで災害対策基本法が改正され、警戒レベル4の「避難勧告」と「避難指示」が「避難指示」に一本化されるなど、避難情報の表現が変更されました。いざという時に適切な避難行動をとるため、最新の避難情報をご確認ください。

■新しい避難情報

警戒レベル	新たな避難情報など	取るべき行動
レベル5	緊急安全確保 (市発令)	命の危険 直ちに安全確保
レベル4	避難指示 (市発令)	危険な場所から 全員避難
.....レベル4で危険な場所から全員避難完了!.....		
レベル3	高齢者等避難 (市発令)	危険な場所から 高齢者等は避難
レベル2	大雨・洪水注意 (気象庁発表)	自らの避難行動を確認
レベル1	早期注意情報 (気象庁発表)	災害への心構えを高める

避難時の持ち出し品を準備

災害時に備えた、避難の際の持ち出し品をまとめたものです。万が一に備え、家族で話し合って準備しておくようにしましょう。非常食は、3日以上以上の備蓄が望ましく、特に食物アレルギーをお持ちの方や乳幼児の保護者の方は事前の備えが重要です。

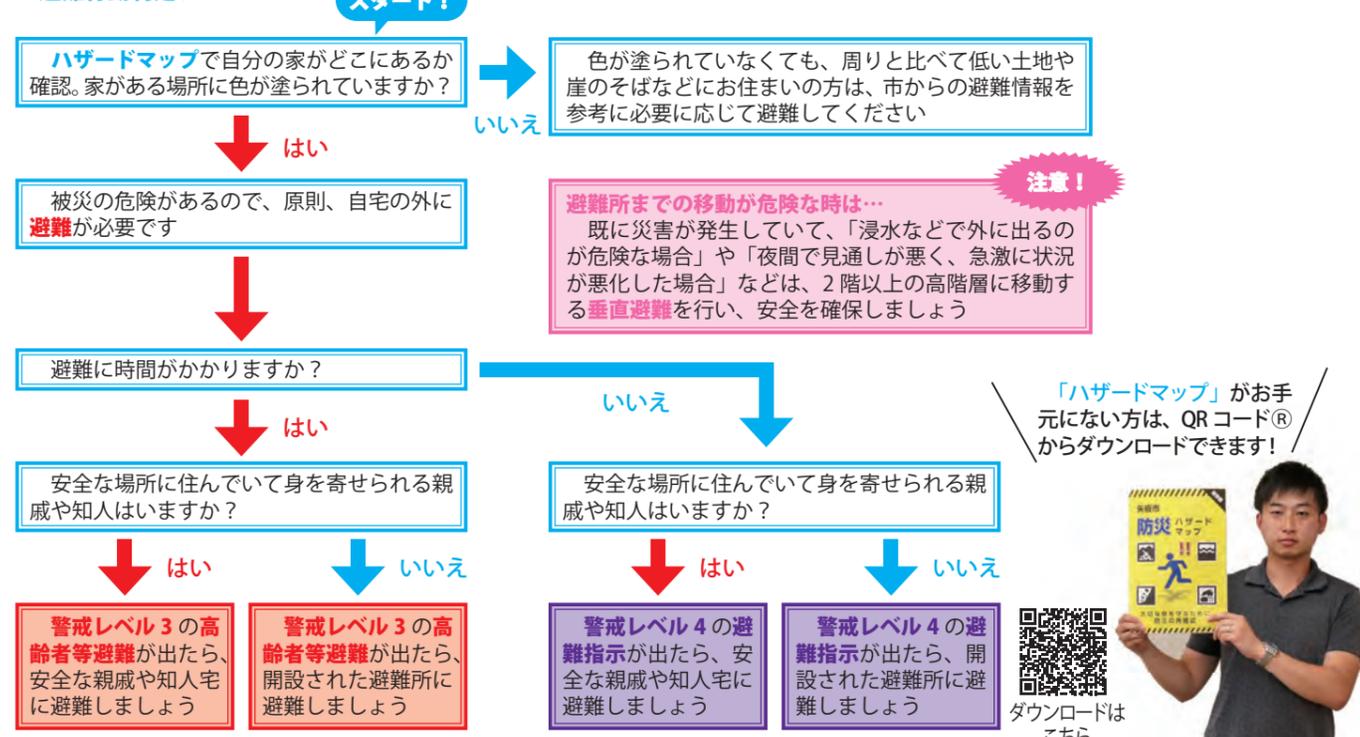
■持ち出し品チェックリスト



避難行動判定フローを確認しましょう!

台風・豪雨時に備えて、ハザードマップと一緒に自宅の災害リスクと、とるべき行動を確認しておきましょう。

■避難行動判定フロー



公助

「市などの行政や公的機関が、災害から暮らしを守る」

市をはじめ、国や県のほか、消防や警察などの公的機関による応急対策活動を「公助」といいます。各機関とも防災に対する「啓発・準備・整備」を進めており、災害時には状況を把握し、迅速な情報提供や的確な災害対応ができるよう日頃から備えています。ここでは、東日本台風を踏まえた市の防災対策の取り組みを紹介します。

■戸別受信機を無償貸与



防災行政無線による放送を屋内でも聞くことができる戸別受信機を無償で貸与しています。豪雨でも音がかき消されることなく、防災無線の内容を聞くことができます。

■コンテナホテルの避難所利用



市と(株)デベロップは、東町で同社が運営する宿泊施設(コンテナホテル)の避難所としての利用に関する協定を締結しました。今後も避難所の機能拡充に努めてまいります。

■有事に備えた土のうづくり



市では、水害に対して迅速に対応できるように、土のうの備蓄を行っています。5月には矢板消防署から指導していただき、2,000個の土のうを作成しました。

■市職員による避難所開設訓練



昨年7月に、市職員による新型コロナウイルスの感染症対策を取り入れた避難所開設訓練を行い、段ボールベットや間仕切りの設営方法を習得しました。今年度も訓練を予定しています。

■避難所の感染症対策に空調機器設置



指定避難所に指定されている矢板小・矢板中・泉中・片岡中の体育館に空調機器としてエアコンを設置しました。これにより、避難所における感染機会の削減や避難所機能の向上を図りました。

■避難所の混雑情報配信サービス



(株)バカンが提供する避難所の混雑情報配信サービスの運用を開始しました。市ホームページから避難所の開設・混雑状況をリアルタイムで確認でき、避難所の3密回避や分散避難につながります。

「災害はいつ発生するか分からない。いざというときに備え、自助・共助・公助の輪を広げましょう。」

市では、災害に強いまちづくりを目指すため、上記の取り組みのほか、今年2月に開館した「イケボス池田キッズハウス(矢板市子ども未来館)」を防災拠点として位置づけ、施設の整備や防災備蓄品の拡充など、施設の機能強化にも取り組んでいます。東日本台風の経験を踏まえ対策を強化してきましたが、自然災害の発生を止めることはできません。事前に対策をとり、被害を軽減する「減災」への取り組みがとて重要で。減災には、自助・公助、そして次ページに紹介します共助の役割を理解し、それぞれが連携することで災害対応力を高めることが大切です。



共助

「わが街は、わが手で守る」

近隣の皆さんと協力して、地域を守る備えと行動を「共助」といいます。
自分の住んでいる地域は「昔はどんな場所だったのか」、「過去にどのような災害が起きているのか」などの特性は、昔からその地域に住んでいる方がよくご存じです。被害を最小限に抑えることができるよう、地域の特性を理解されている皆さんが協力して、「もしも」の災害への備えをしておきましょう。

ここでは、地域のために取り組んでいる『矢板市消防団』、『片岡四区行政区』、『国際医療福祉大学塩谷病院』に、「東日本台風での活動状況」と「そこで得た教訓をどのように地域のため活かしていくのか」についてインタビューした内容をご紹介します。

矢板市消防団



矢板市消防団
団長 大貫 正博
昭和63年4月1日入団

▶矢板市消防団は、6分団22部で構成され、今年4月1日現在、女性消防団員9人を含む364人で活動しています。職務は火災時の消火活動のほか、防災・防火啓発活動など多岐に渡ります。

「災害時の迅速な情報収集に向けて。そして、これからも地域のために活動する。」

令和元年の東日本台風の際、団員は自力で避難することが困難な方をサポートし避難所に搬送したり、ポンプ車を使って冠水したアンダーパスの水抜き作業を夜通し行ってくれたりするなど、献身的に活動してくれました。
当時、状況が刻々と変化する中で各分団から被害状況や避難所の様子について逐一連絡が入りますが、言葉でのやりとりでは現場の状況や指示内容を共有するのに時間がかかりました。
そこで目で見て状況を把握できるように、携帯のアプリ機能を活用した画像転送による情報伝達を考え、今月行う訓練の中で試したいと思っています。
今後については、減少傾向にある団員の確保など組織の維持に努め、これからも地域のために貢献していきたいと考えています。



消防団員募集中!!



矢板市消防団
4分団5部 和氣 正陽
令和2年4月1日入団



「一緒に、JIMOTO を守ってみませんか！」

地元の先輩に誘われたのが入団のきっかけです。
入団してからまだ日が浅いですが、火災現場に出動し放水作業の補助をしたり、地元分団による夜間の見回りを行ったりしてきました。
自分たちの地元は自分たちが守るといふ、地元貢献に大変やりがいを感じています。
訓練は厳しい面もありますが、尊敬できる先輩団員の皆さんと一緒に、これからも消防団活動に励んでいきたいと思っています。
私たちと一緒に活動しましょう。連絡お待ちしております！

SAVE MY TOWN

消防団に関するお問い合わせ
生活環境課 ☎ (43) 1114

女性のあなたも、
地元を守る消防団で
活動しませんか!



片岡四区行政区 (自主防災組織)



片岡四区行政区
(右) 区長 内田 隆
(左) 副区長(前区長) 高橋 正

▶片岡四区行政区は、平成30年には住民約250人の参加による避難訓練を実施したり、地区防災計画のモデル地区として選定され令和2年2月には市内の行政区では初となる「地区防災計画」を策定しました。

「お互いの顔が見える、地域を目指す。それには、日頃からの活動が大切。」

片岡四区行政区内の一部には土砂災害警戒区域があります。
東日本台風では幸い行政区内では大きな被害はありませんでしたが、住民の皆さんの安否確認のため軒一軒を訪問する中で、「ここにはどんな人が住んでいるのか?」といった、近所でありながら普段の暮らしぶりを把握しきれていなかった現状を痛感しました。
そこで現在では、班長さんにも協力してもらい、年に1度の住民名簿の更新を行っているほか、定期的な防犯パトロールや空き家調査、そして毎月の広報配布を手渡しで行うなど、日頃から住民の顔が見え、会話ができる関係づくりを心掛けています。
今後も行政区として避難訓練などを行い、住民と一緒に防災の備えの意識を高められるよう取り組んでいきたいと思っています。

片岡四区で作成したハザードマップ



国際医療福祉大学塩谷病院



国際医療福祉大学塩谷病院
統括 DMAT 日本 DMAT 隊員
栃木県災害医療コーディネーター
一瀬 雅典

▶塩谷病院は、平成29年に栃木県の災害拠点病院および災害派遣医療チーム(DMAT)指定病院に指定されています。

「職員の意識を見直し、地域のために災害対応力を向上。」

東日本台風の時、当院ではDMATが機能することで、被災された方の受け入れや市内避難所の状況確認を迅速に行うことができました。また、県内他市への派遣要請に基づき、本市以外での災害対応にも携わりました。
しかし、私たちDMATとして、全職員に危機意識のスイッチを入れるまでは至らなかったの思いがあります。
当院ではその思いを次に活かすためにも、毎年、塩谷広域消防本部と合同での災害初動訓練を行うなど、全職員の災害に対する危機意識の見直しと、迅速かつ確かな医療行為の確認を行っています。今年度も7月17日(土)に、新型コロナの流行下での大規模地震発生を想定した訓練を行いました。
今後も関係機関と連携し、地域における災害対応の強化に取り組んでいきたいと考えています。

※DMAT (Disaster Medical Assistance Team) とは、災害が発生した緊急事態に機動力を持って行動できる医療チームのこと。災害が発生してから48時間以内の急性期に活動し、災害医療や被災地の病院支援を行います。

7月17日(土)に行われた災害初動訓練の様子

